

説明資料 第1稿)での記載箇所		章項目	5.4	ページ	p.22	行	2行目
事業名	利水者の水需要の精査確認		河川名				
府 県	流域府県	市町村	流域市町		地先		

●現状の課題
 社会経済等の急激な変化に応じて、水利権量と実水需要量に乖離が生じている。

●河川整備の方針
 今後の水需要を利水者に確認し、厳正に吟味する。



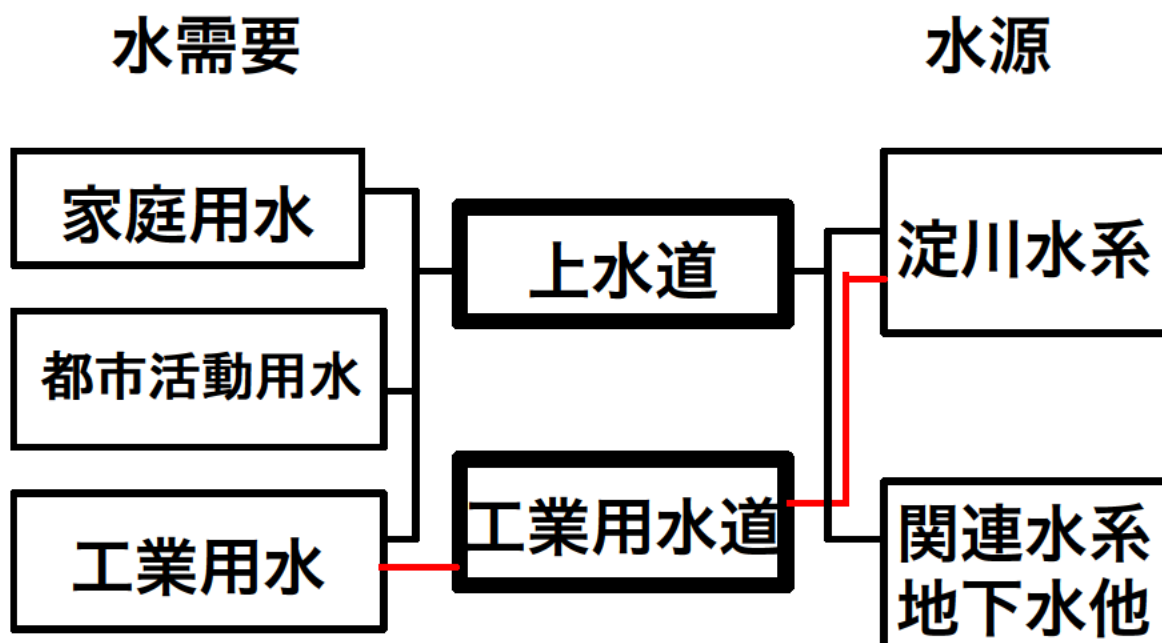
●具体的な整備内容
 利水者の水需要の精査確認

●確認する内容
 水利権申請・更新における使用水量の詳細な資料をもとに審査を行う。

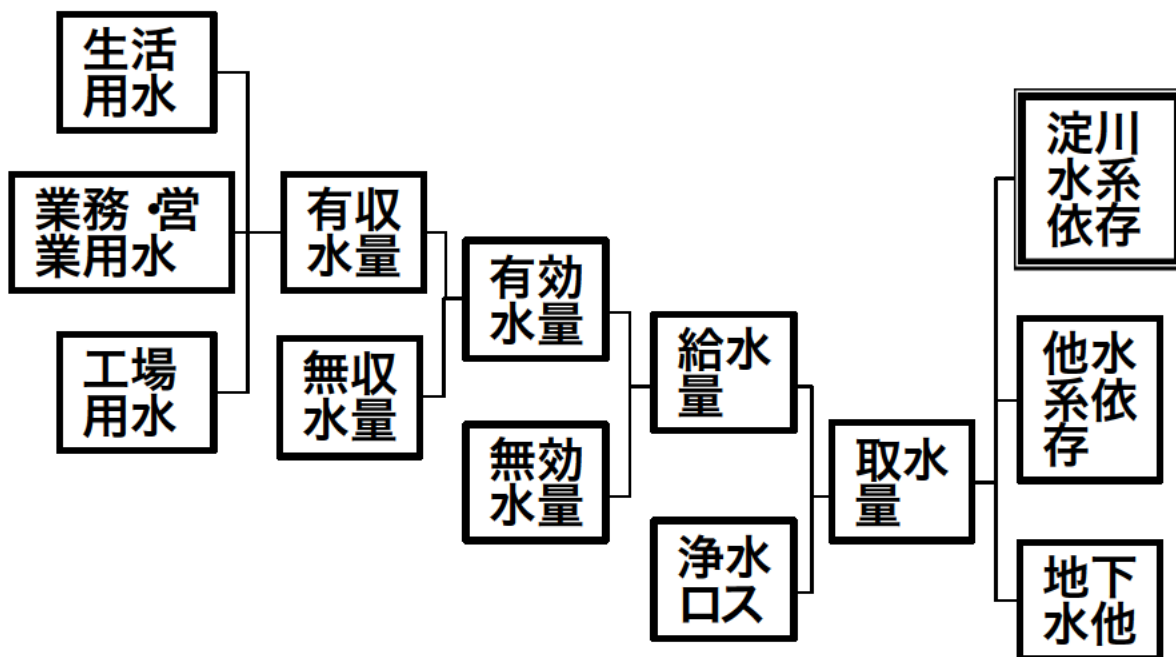
●スケジュール

H15	H17	H19	H21	H23	H25
	水需要の精査確認				
	水需要の精査確認				

●水需要の精査・確認



●水需要の精査・確認



説明資料 第1稿)での記載箇所		章項目	5.4	ページ	p.22	行	3行目
事業名	用途間転用の連絡調整の実施		河川名				
府 県		市町村			地先		

●現状の課題

近年の少子高齢化社会の到来や人口増の緩和等、社会経済の変化は急激であり、かつて日本経済を支えた臨海工業地帯では、工場の海外移転や資源循環型への転換などにより使用水量が減少している。

●河川整備の方針

現行の水利用の実態や濁水に対する安全度(利水安全度)を踏まえ、水環境維持改善のための新たな水需要等を含め、用途間転用等の水利用の合理化に努める。

●位置図



●具体的な整備内容

利水者間の用途間転用を行うにあたっては、少雨化傾向等による現状の利水安全度評価を踏まえて行われるよう関係機関との連絡調整を実施

- 大阪臨海工業用水道
- 大阪府営工業用水道
- 尼崎市営工業用水道

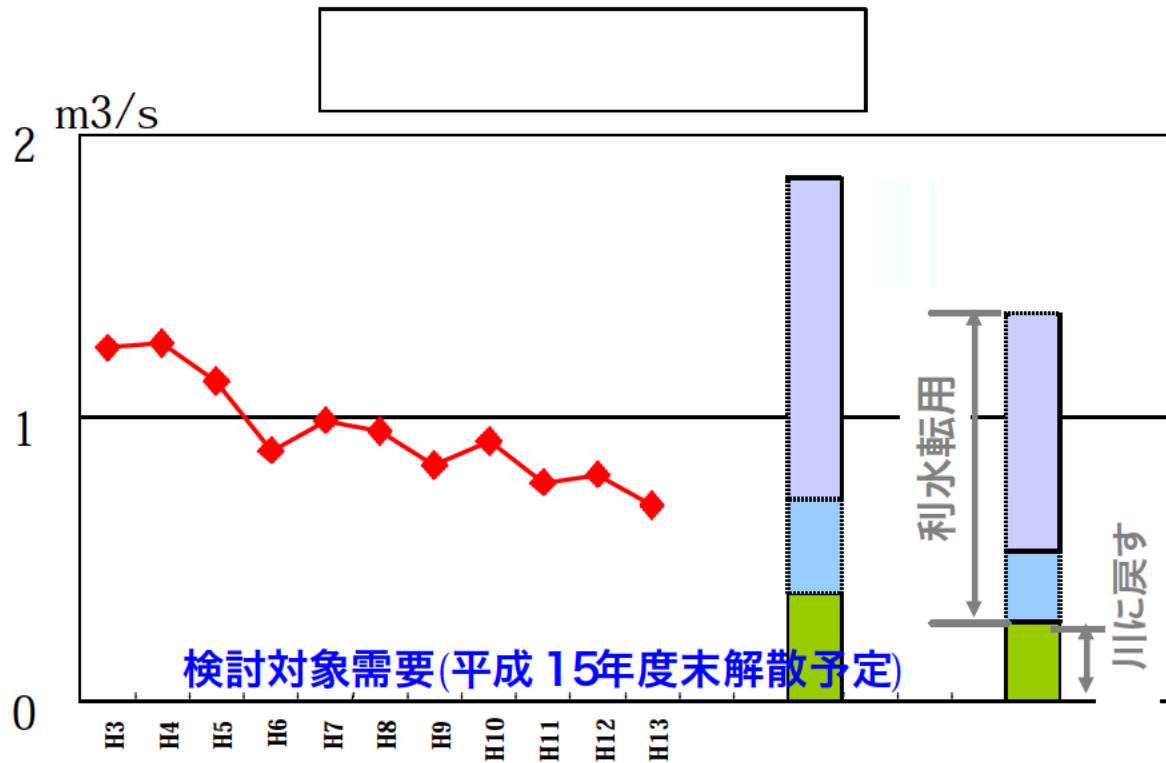
●実施する項目

- 水需要の精査 確認
- 水源の安全度評価
- ギャップを他の利水者に転用

●スケジュール

	H15	H17	H19	H21	H23	H25
用途間転用の調整	●					
用途間転用の手続	○	○				

●用途間転用調整の基本的な考え方



●水環境維持・改善のための新たな水需要

提言における利水の現状と課題

中小河川の汚濁による水質悪化



寝屋川、神崎川などの派川では
河川の浄化用水として淀川からの
供給増の要望が強い

+ 淀川大堰下流(新淀川)の維持流量
の調査検討を行う

説明資料 第1稿)での記載箇所	章項目	5.4	ページ	p.22	行	9行目
事業名	慣行農水の水利実態把握、許可水利への切替促進		河川名			
府県	流域府県	市町村	流域市町	地先		

●現状の課題

社会経済等の急激な変化に応じて、水利権量と実水需要量に乖離が生じている。
 農業用水についても、かんがい面積の減少、機械化等の高度化による営農形態の変化、用排水の分離等による水利実態が変化している。

●河川整備の方針

現行の水利実態を踏まえ、水利権の見直し、用途間転用等の水利の合理化に努める。
 なお、農業用水の水利権見直しにあたっては、地域の環境機能に配慮する。

●位置図



●具体的な整備内容

農業用水の慣行水利権について、水利実態把握、許可水利への切替促進

●慣行水利権の状況

- 淀川水系の農業取水数：119件
- 許可水利権：66件
- 慣行水利権：53件

届け出の記載内容

- ①流水の占用の目的
- ②流水の量
- ③占用の条件
- ④取水口又は放水口の位置
- ⑤占用の場所
- ⑥占用のための施設
- ⑦占用に係る事業の概要その他

参考となるべき事項

実態として、届出書の記載に必要な流水の量などの記載のないものも多い。

●スケジュール

	H15	H17	H19	H21	H23	H25
調整						
水利実態の把握	[Red bar across all years]					
許可水利への切替促進						

慣行水利権の水利用実態把握

実態把握のための調査項目

取水者、取水位置	既知
受益面積	一部既知
取水口構造・取水方法	× 調査必要
取水の状況 (期間別の変動)	
利用の実態 (かんがい期・非かんがい期) (環境用水・防火用水・希釈用水・水路維持用水等)	
× 取水管理方法 (取水量の調節・制御方法)	
× 受益地の範囲・水路系統	
× 河川への還元水量の実態 (位置・水量等)	

説明資料 第1稿)での記載箇所	章項目	5.4	ページ	p.22	行	12行目
事業名	ダム利水の効率的な運用		河川名	桂川		
府県	京都府	市町村	日吉町	地先		

●現状の課題

近年の少雨化傾向により渇水が頻発しており、室生ダム、日吉ダム、一庫ダムでは頻繁に渇水調整を実施せざるを得ない状況になっている。

●河川整備の方針

既存水資源開発施設の再編と運用の見直し
 取水実態や治水上の必要性、河川環境への影響、近年の少雨化傾向等を踏まえて、既存水資源開発施設の再編と運用の見直しを行い、水資源の有効活用を図る。

●位置図



●具体的な整備内容

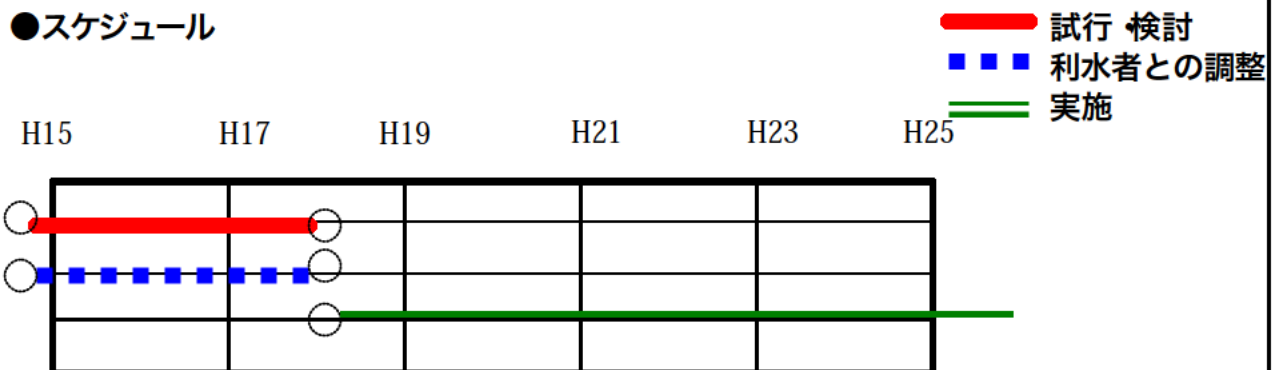
効率的な運用 実態に基づく下流確保流量の見直し)の実施

- 桂川 日吉ダム

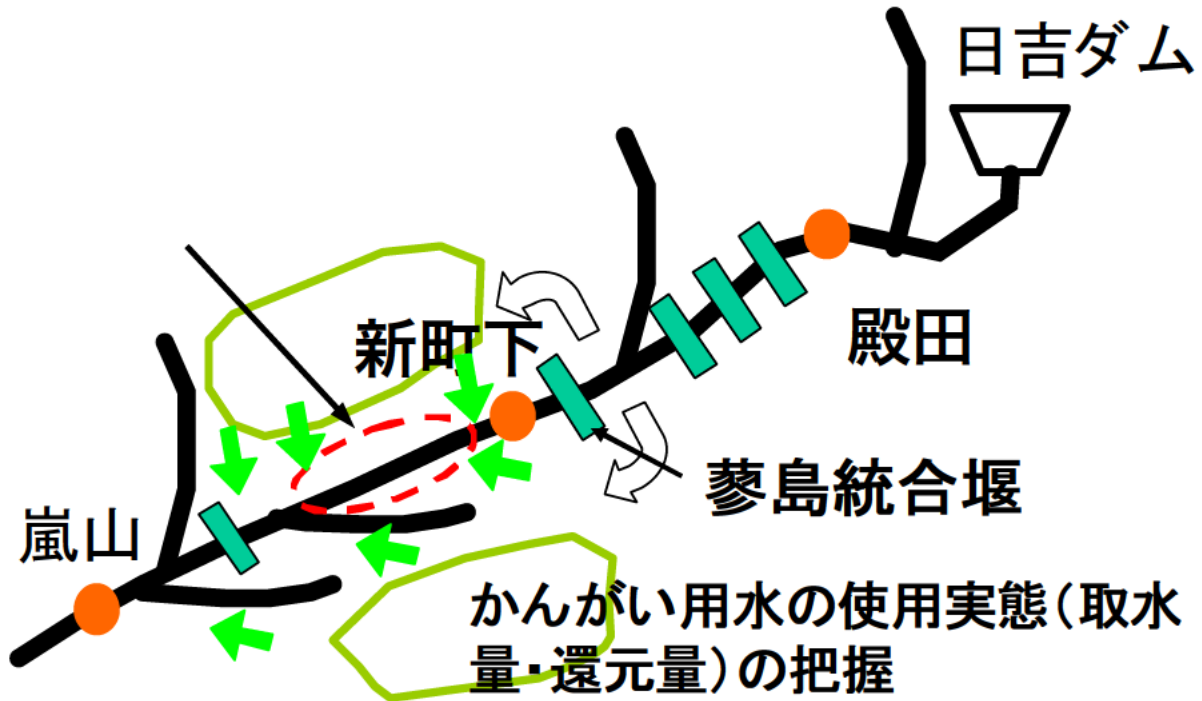
●実施する項目

- 河川環境への影響の把握
- 農業用水の水利用実態把握 実績取水水量把握にむけた支援の検討)
- 利水計算 他ダム運用への影響)
- 実態に基づく下流確保流量の見直し
- 貯水池運用計画

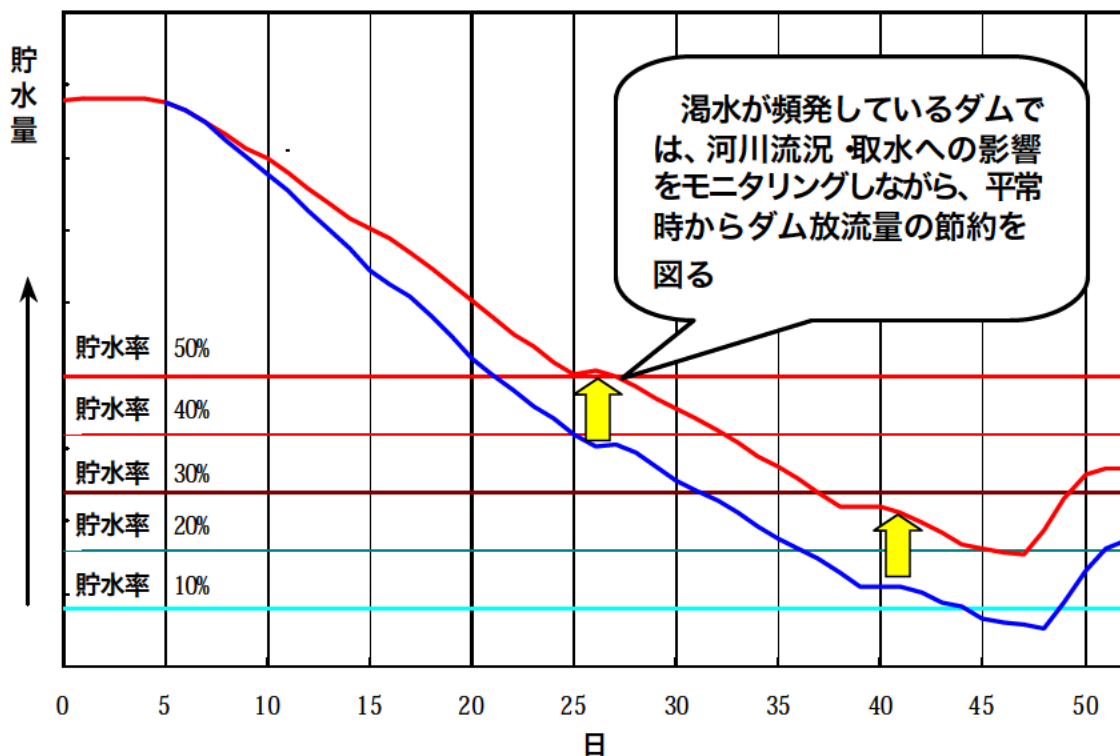
●スケジュール



●日吉ダムでの効率的な運用の実施
 実態に基づく〈新町下地点の確保流量見直し〉



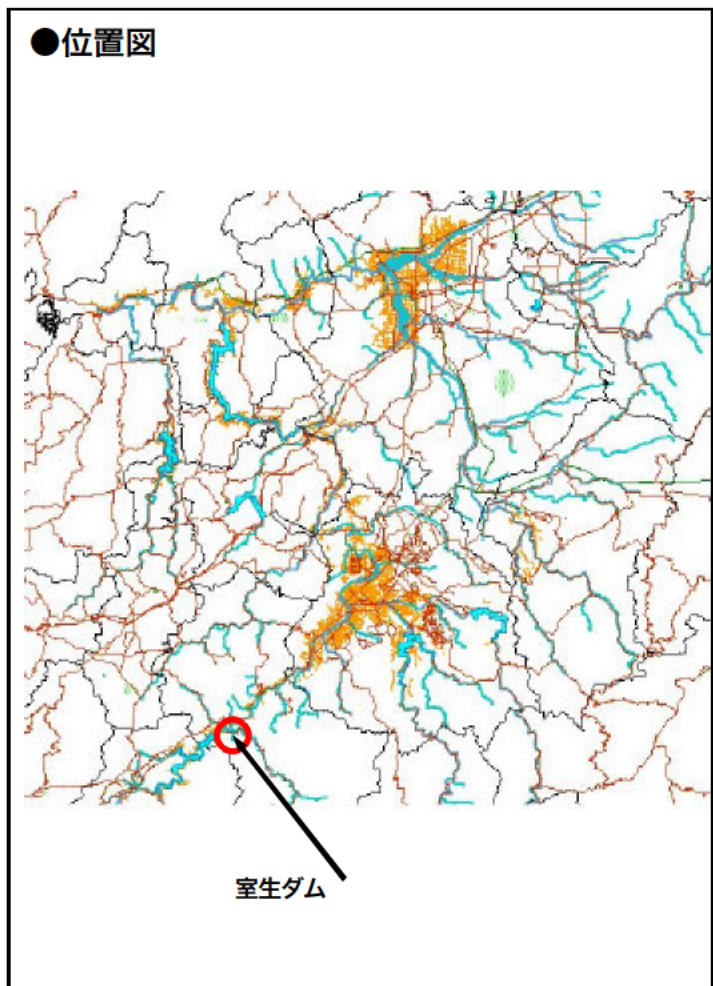
●既存水資源開発施設の効率的運用による有効活用の効果



説明資料 第1稿)での記載箇所	章項目	5.4	ページ	p.22	行	14行目
事業名	ダム利水の効果的な運用		河川名	木津川上流(守陀川)		
府県	奈良県	市町村	室生村	地先	大野	

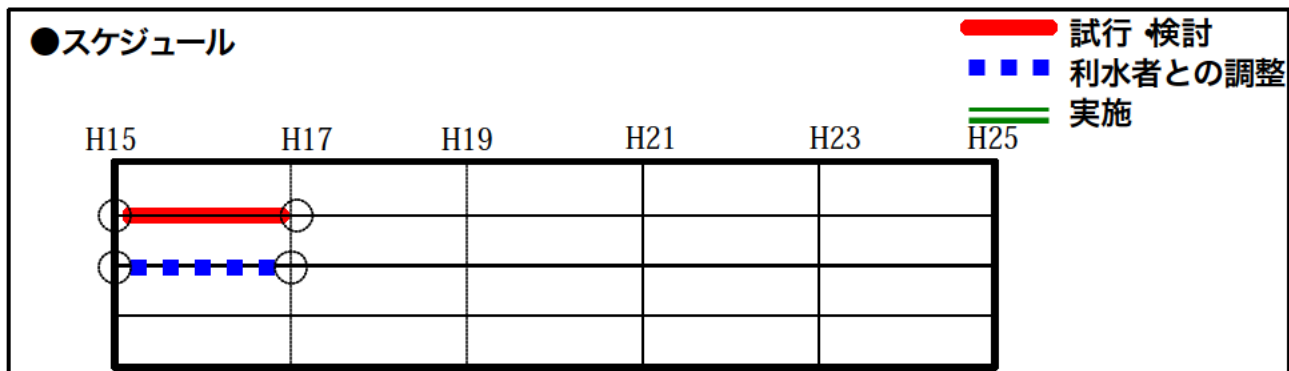
●現状の課題
 近年の少雨化傾向により渇水が頻発しており、室生ダム、日吉ダム、一庫ダムでは頻りに渇水調整を実施せざるを得ない状況になっている。

●河川整備の方針
 ・既存水資源開発施設の再編と運用の見直し
 取水実態や治水上の必要性、河川環境への影響、近年の少雨化傾向等を踏まえて、既存水資源開発施設の再編と運用の見直しを行い、水資源の有効活用を図る。

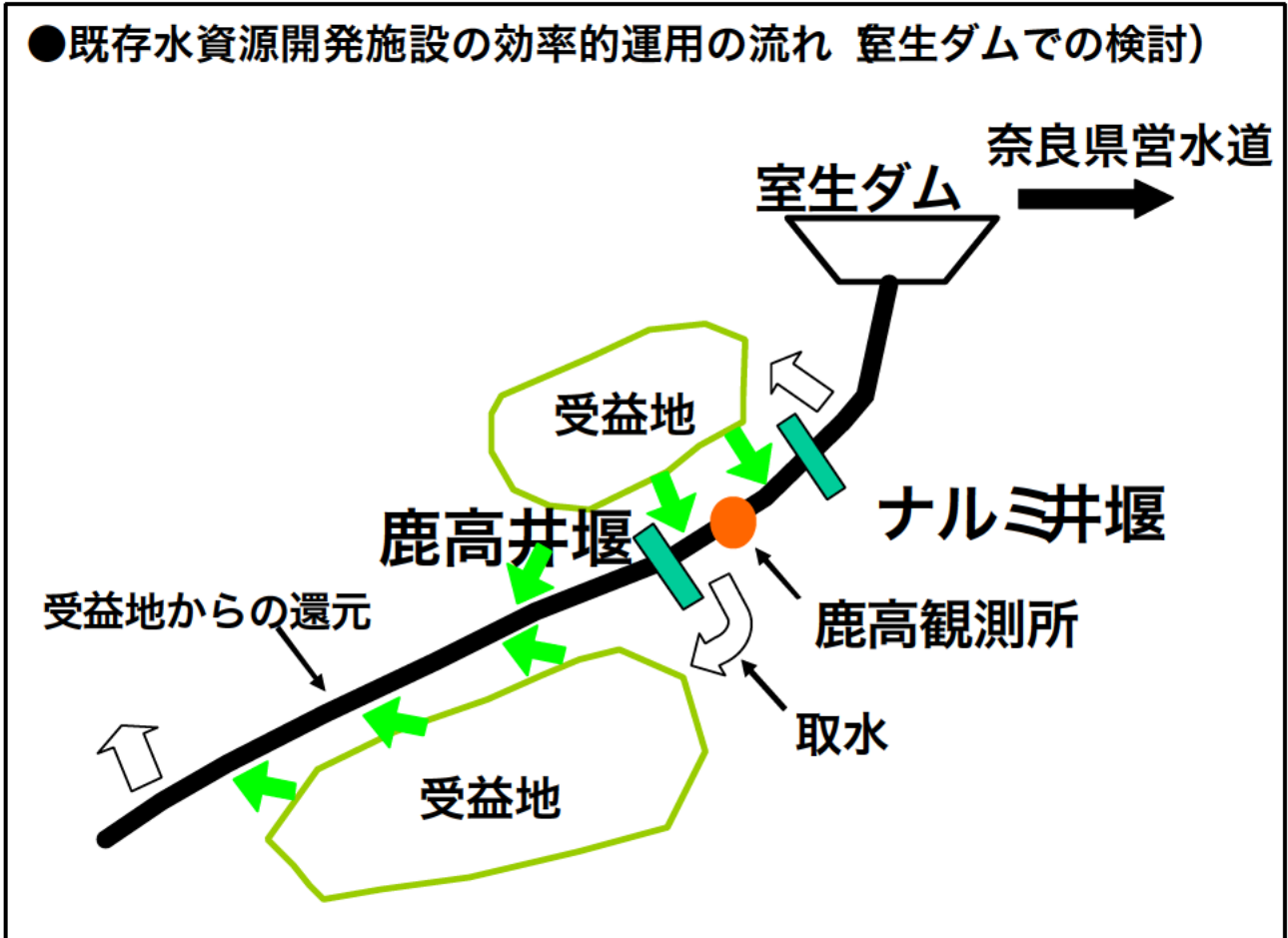


●具体的な整備内容
 効率的な運用の検討
 ○木津川 室生ダム

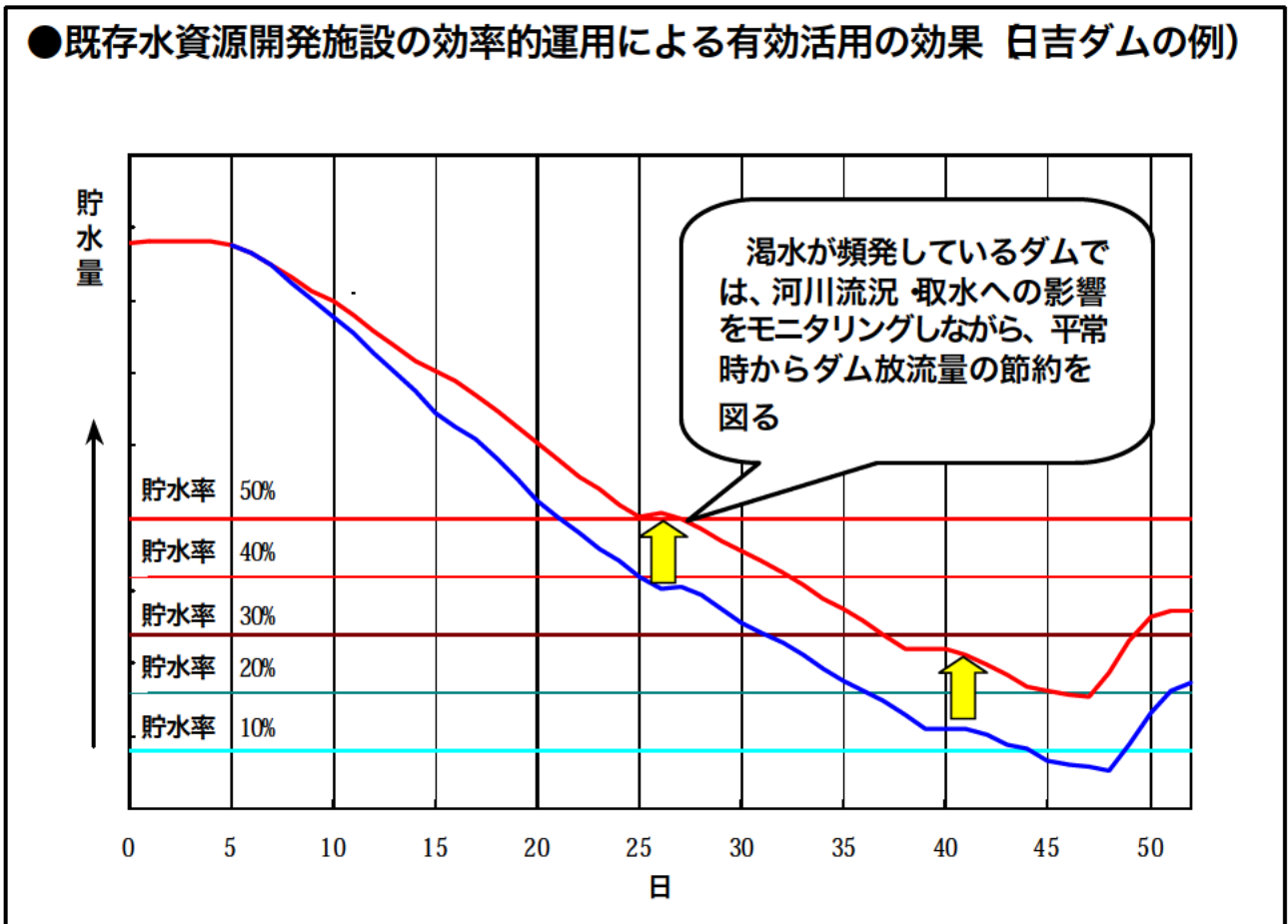
●検討項目
 かんがい用水の使用実態(取水量・還元量)の変化などにより、河川流況と取水に影響のない範囲で、平常時からダム放流量を削減する余地がないかを検討



●既存水資源開発施設の効率的運用の流れ 室生ダムでの検討)



●既存水資源開発施設の効率的運用による有効活用の効果 日吉ダムの例)



説明資料 第1稿)での記載箇所		章項目	5.4	ページ	p.22	行	15行目
事業名	ダム利水の効率的な運用		河川名	猪名川			
府県	兵庫県	市町村	川西市		地先		

●現状の課題

近年の少雨化傾向により渇水が頻発しており、室生ダム、日吉ダム、一庫ダムでは頻りに渇水調整を実施せざるを得ない状況になっている。

●河川整備の方針

既存水資源開発施設の再編と運用の見直し
 取水実態や治水上の必要性、河川環境への影響、近年の少雨化傾向等を踏まえて、既存水資源開発施設の再編と運用の見直しを行い、水資源の有効活用を図る。

●位置図



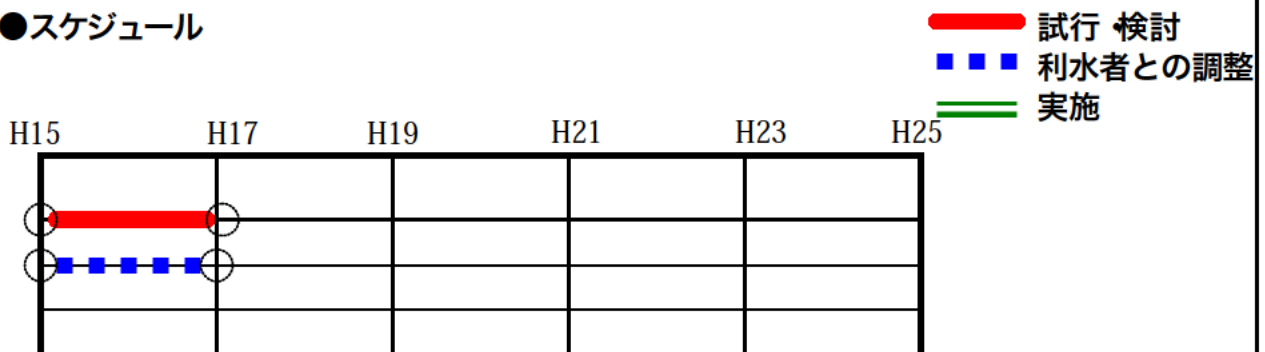
●具体的な整備内容

効率的な運用の検討
 ○猪名川 一庫ダム

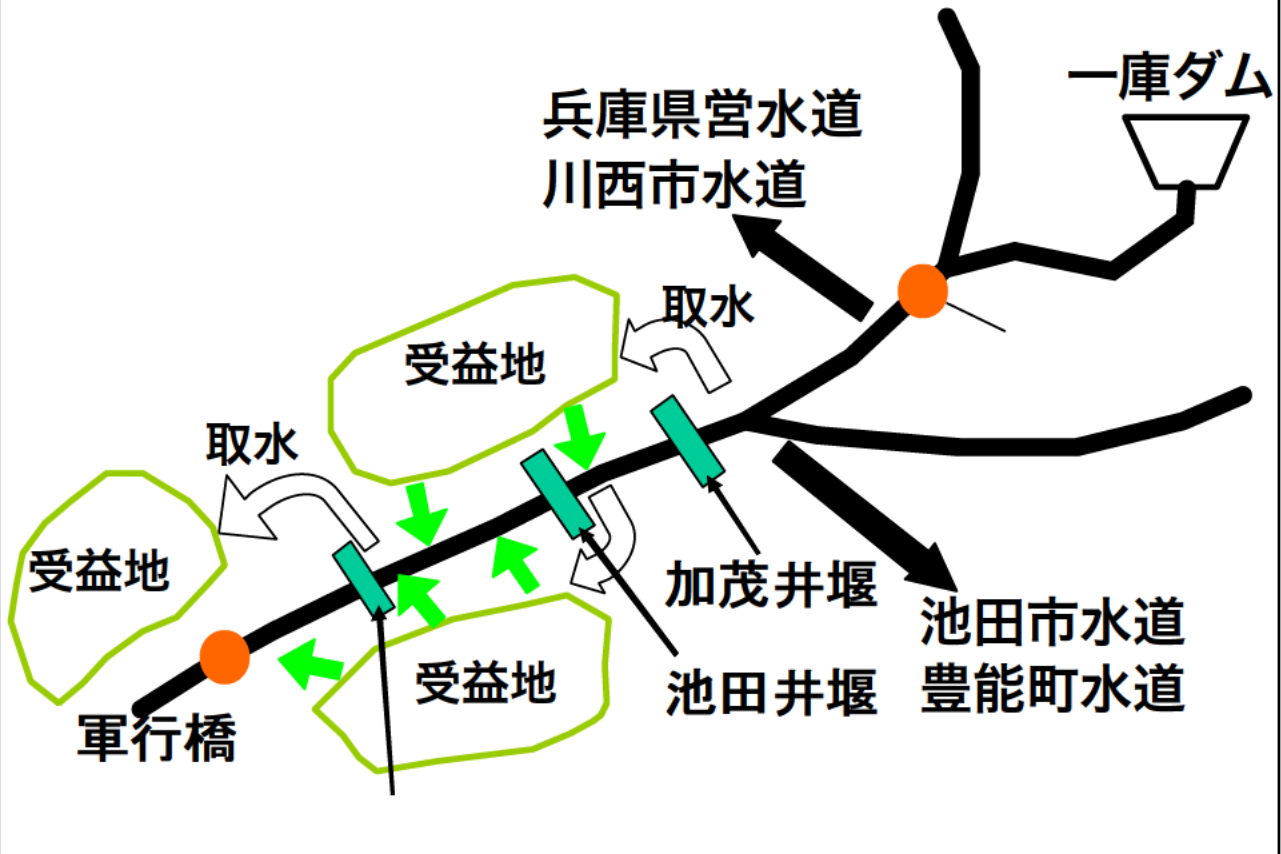
●検討項目

かんがい用水の使用実態 (取水量・還元量)の変化などにより、河川流況と取水に影響のない範囲で、平常時からダム放流量を削減する余地がないかを検討

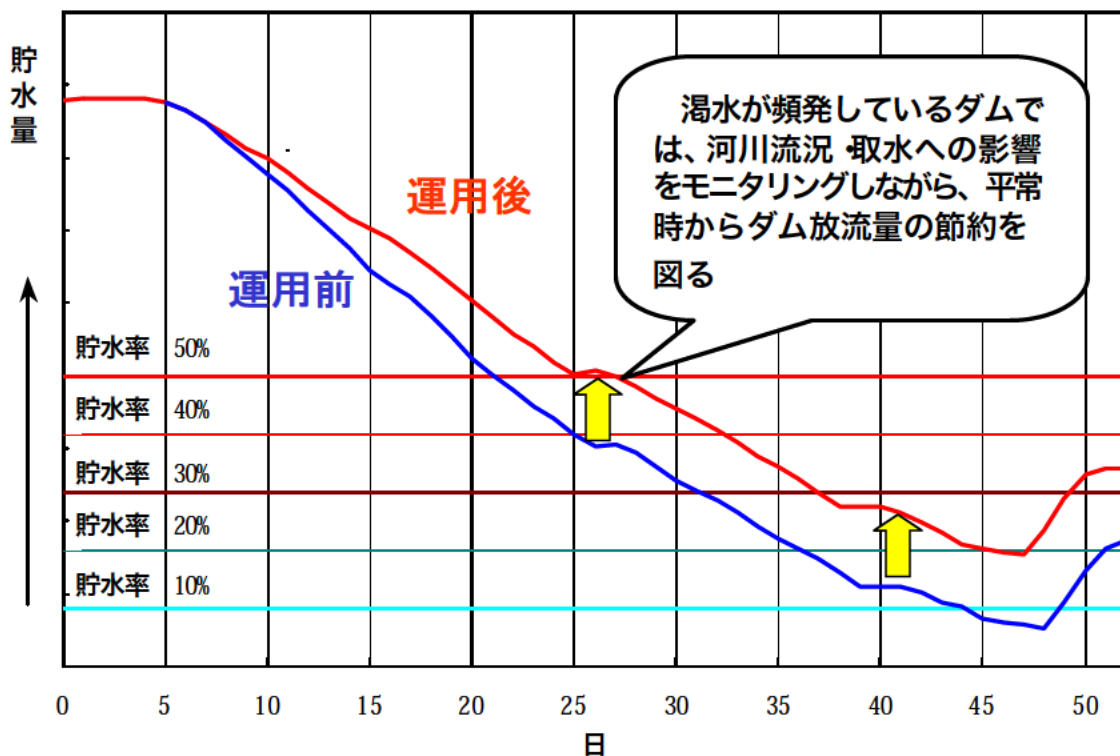
●スケジュール



●既存水資源開発施設の効率的運用の流れ (一庫ダムでの検討)



●既存水資源開発施設の効率的運用による有効活用の効果 (日吉ダムの例)



説明資料 第1稿)での記載箇所	章項目	5.4	ページ	p.22	行	16行目
事業名	湯水対策会議の改正の調整		河川名			
府 県	流域府県	市町村	流域市町	地先		

●現状の課題

社会経済の変化等に伴い水利用の実態が変化している。
 近年の少雨化傾向により湯水が頻発している。また、地球規模の気候変動による降雨量の変動の増大は、今後湯水の危険性を高める恐れがある。

●河川整備の方針

利水者、自治体等関係機関、住民と連携して水需要抑制方策について検討するとともに、湯水等の発生時の被害を最小限に抑える対策として、湯水調整の円滑化などを図っていく。

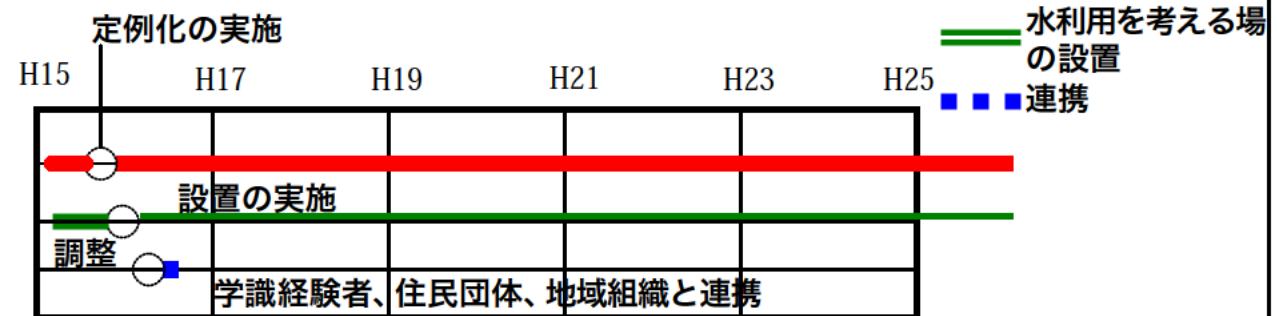
●位置図



●具体的な整備内容

従来、湯水時のみ開催していた湯水対策会議を、平常時からの水利用に関する情報交換や水需要抑制についての具体的方策を協議できる組織への改正の調整

●スケジュール



●機構図

